



# 関まつり 川紀行

## 関に伝わる「まつり」を紹介します

二十 其の

### チンチカカ

巨大な炎で先祖の霊を送り出す小屋名地区のお盆の伝統行事「チンチカカ」。毎年8月15日、同地区の津保川河畔で行われます。



チンチカカは明治初期に始まった精霊送りの行事。名前の由来は「チンチンカンカン」という鐘や太鼓の音とされています。昭和32年に一時中断されましたが、地域の伝統を次の世代に伝えたいと、平成11年に実行委員会が中心となって復活させました。

京都の「五山送り火」のように、山の地形に合わせて「鍋づる形」と「へ」の字形」の送り火を上組と下組がそれぞれ行っていました。現在は形を変えて、河原の土手で見る事ができます。燃え盛る炎の間で、実行委員会の方々が鐘や太鼓を打ち鳴らし、住民や見物客らが夏の夜の伝統行事を見守ります。

午後7時ころになると、上組と下組に分かれた子どもから大人までの地元住民約300人がたいまつを手に河原まで行列を作ります。河原まで来ると、わらや竹で作られた高さ約10メートルの太たいまつに点火し、川の両岸に設けられた20基のかがり火にも火がともされます。点火された太たいまつは豪快に燃え上がり、周囲を真っ赤に染めます。

かつては現在の百年公園付近の山に、

